

知夫島、西島、中島ノ三小島ヲ島前ト云ヒ、其東北ニアル一島ヲ島後ト云フ、此國ハ古ヘ國府ヲ周吉郡ニ置キ、知夫、海部、周吉、穩地ノ四郡ヲ管シ、延喜ノ制、下國ニ列ス、明治維新ノ後、島根縣ヲシテ之ヲ治セシム、

〔倭名類聚抄五〕隱岐於岐

〔運步色葉集遠〕隱岐四 隱州シシ

〔日本風土記寄語島名〕隱岐和計

〔易林本節用集下〕隱岐州、下管四郡、四方二日、五穀乏、藻蜜多、以鮑稱名也、小下國也、

〔和漢三才圖會七十八〕當國伯耆出雲石見等海澳所在島也、故爲澳置州、後改用隱岐字、

〔日本書紀纂疏上二〕億岐者與之義、五音相通、此洲在北海之西北、如人家之有與、言與深也、

〔倭訓栞前編四十五〕おき 隱岐國は北海山陰道の澳中にある國也、神代紀に億伎三子洲といへるは、知夫島前國府如子ならべり、

〔古事記上〕於是伊邪那那岐命略、中 妹伊邪那美命略、中 如此言竟而御合生子略、中 次生隱伎之三子島、亦名天之忍許呂別許呂二、字以音

〔古事記傳五〕隱伎之三子島、下には游岐島と書り、名義は海原ウミハラの奥中にある島と云なり、書紀口

也、西北之隅謂之奥とあるは、似たることながら、三子島とは、或人、此國三島ある故に云と云り、漢書にかゝれる故に事違へり、纂疏の説も同じ、

今國圖を考るに、まづ此國四島に分れたる、其中に東北方に在て大なるを、俗に島後ウラゴと云、其西南方シホに今、道五里チハ離れて、天之島、向之島、知夫島とて三あり、此三島を統て島前ウラマエと云なり、島後ウラゴに比ぶれば、いづれ

し、三子とは、まことに此を以て云なるべし、

〔諸國名義考下〕隱岐

和名抄に隱岐於岐、國府名義は日本紀纂疏に、隱岐者與之義也云々、此洲在北海之西北とあり、或